

・周年栽培の花卉（ガーベラ）は、コナジラミ類・ハダニ類が多発し害虫防除が困難ですが、今般天敵（スワルスキーカブリダニ、ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ）を導入した年間防除の有効事例が得られましたのでご紹介いたします。

2020.6.1 J A 全農ちば
営農支援部

花卉(ガーベラ)年間病虫害防除の事例紹介です。

栽培法		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
主な作業		アミダリット散布(都度)	アミダリット散布(都度)	アミダリット散布(都度)	アミダリット散布(都度)	アミダリット散布(都度)	アミダリット散布(都度)	アミダリット散布(都度)	アミダリット散布(都度)	アミダリット散布(都度)	アミダリット散布(都度)	アミダリット散布(都度)	アミダリット散布(都度)	更新 (2回)
主要病虫害発生時期	ハダニ類													農薬：8回
	コナジラミ類													農薬：5回
	ハスモンヨトウ													農薬：3回
	ハモグリバエ													農薬：3回
	アブラムシ類													農薬：1回
	うどんこ病													農薬：5回
	灰色かび病													農薬：3回
天敵	ミヤコバンカー (100個/10a)													天敵：2回
	チリカブリ (2000頭～6000頭)													天敵：4回
ホイト	スワルバンカー (200個/10a)													天敵：3回

↓ *殺虫・殺菌剤の各病害虫の「○」は、登録の有無を示します。

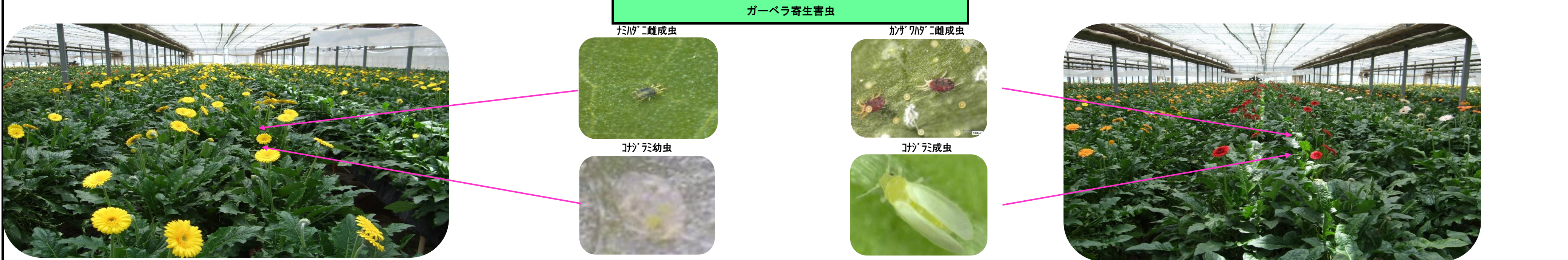
栽培	時期	天 敵 導 入			化 学 農 薬		コナジラミ	ハスモンヨトウ	ハモグリバエ	アブラムシ	化学農薬	立枯れ病	うどんこ病	灰色かび病	特性	
		ミヤコバンカー	チリカブリダニ	スワルバンカー	ダニ剤	他殺虫剤					殺菌剤				予防 効果	治療 効果
本圃・生育期	4月															
	5月 (更新)				アグリメック乳剤 500倍 (※天敵放飼前1週間前まで使用可能)	ディアナSC 2500倍 (天敵放飼前防除) (※天敵放飼前3週間前まで使用可能)	○									
	6月	100個 / 10a	2000頭～6000頭/10a	200個/10a		トリガード液剤 1000倍 (※下表影響日数Bランク)			○							
	7月		ハダニが多い場合は6000頭/10a放飼してください。(3本)		カネマイトフロアブル1000倍 (※天敵放飼後補正防除)						フルピカフロアブル 2000倍			○	○	×
	8月		2000頭～6000頭/10a	200個/10a	ムシラップ 500倍 (※2週連続散布不可)	コルト顆粒水和剤 4000倍	○									
	9月 (更新)		ハダニが多い場合は6000頭/10a放飼してください。(3本)			アブロード水和剤 1000倍	○	○			カリグリーン水溶剤 800倍		○		×	○
	10月				テデオン水和剤 500倍 (※天敵放飼後補正防除) ムシラップ 500倍 (※2週連続散布不可)	マツチ乳剤 2000倍 コルト顆粒水和剤 4000倍	○			○	フルピカフロアブル 2000倍			○	○	×
	11月	100個 / 10a	2000頭～6000頭/10a	200個/10a	ニッソラン水和剤 2000倍 (※天敵放飼前防除)	スタークル顆粒水溶剤2000倍 マツチ乳剤 2000倍	○	○	○		トリフミン水和剤 3000倍		○		○	○
	12月		ハダニが多い場合は6000頭/10a放飼してください。(3本)		テデオン水和剤 500倍 (※天敵放飼後補正防除)	カスケード乳剤 2000倍 (※2週連続散布不可) ベストガード水溶剤 1000倍	○		○		ダコニール1000 1000倍 フルピカフロアブル 2000倍 カリグリーン水溶剤 800倍		○	○	○	×
	1月				ムシラップ 500倍 (※2週連続散布不可)						リゾレックス水和剤 500倍	○			○	×
	2月		2000頭～6000頭/10a			マツチ乳剤 2000倍		○			トリフミン水和剤 3000倍		○		○	○
	3月		ハダニが多い場合は6000頭/10a放飼してください。(3本)													

・無断使用・複写・転載を禁じます。
・記載農薬登録は作成時点のものです。
・実際の使用には最新の登録を確認してください。

化学農薬の登録内容と特性（殺虫剤）						※天敵影響 ・カリカブリダニは、 ミコト菌同評価	化学農薬の登録内容と特性（殺菌剤）					
薬剤名	IRACコード/倍率	天敵影響※	使用前日数	使用回数	特性		薬剤名	IRACコード/倍率	天敵影響※	使用前日数	使用回数	特性
カネマイトフロアブル	20B 1000	A (ミコト・ミコト)	—	1	ハダニ：卵・幼・成		フルピカフロアブル	9 2000	A (ミコト・ミコト)	発病初期	5回	細胞壁分解酵素分泌阻害
ニッソラン水和剤	10A 2000～3000	A (ミコト・ミコト)	—	2	ハダニ：卵・幼		カリグリーン水和剤	NC 800	A (ミコト・ミコト)	発病初期	—	細胞機能阻害
テデオン水和剤	12D 500～1000	A (ミコト・ミコト)	発生初期	10	ハダニ：卵		トリフミン水和剤	3 3000	A (ミコト・ミコト)	発病初期	5回	胞子形成阻害
ムシラップ	— 500	A' (ミコト・ミコト)	発生初期	—	ハダニ：幼・成		ダコニール1000	M5 1000	A (ミコト・ミコト)	—	6回	胞子形成・発芽阻害
アグリメック乳剤	6 500	C1 (ミコト・ミコト)	発生初期	5	ハダニ：卵・幼・成		リゾレックス水和剤	14 500	未確認	生育期	5回	細胞分裂機能制御
コルト顆粒水溶剤	9B 4000	A (ミコト・ミコト)	発生初期	4	定着阻害作用							
アブロード水和剤	16 1000	A (ミコト・ミコト)	発生初期	6	脱皮阻害（幼虫）							
スタークル顆粒水溶剤	4A 2000～3000	A (ミコト・ミコト)	発生初期	5	神経伝達系阻害							
ベストガード水溶剤	4A 1000	A (ミコト・ミコト)	発生初期	4	トラフミン効果							
カスケード乳剤	15 2000	A' (ミコト・ミコト)	—	3	脱皮阻害							
トリガード液剤	17 1000	B (ミコト・ミコト)	発生初期	4	昆虫成長阻害剤							
ディアナSC	5 2500	C2 (ミコト・ミコト)	発生初期	2	摂食抑制効果							

※バンカーシートへの影響目安

A	天敵に影響が小さい剤。いつでもバンカーシートとの併用可。	C1	天敵に影響がある剤。バンカーシート設置1週間前まで使用可能。以降は使用不可。
A'	Aは2週連続散布不可。	C2	天敵に影響がある剤。バンカーシート設置3週間前まで使用可能。以降は使用不可。
B	天敵にやや影響がある剤。ミヤコバンカー・バンカーシート設置前または設置後2週間以内であれば併用可。 ただし、6、7、8月の高温期においては、1週間以内とする。スワルバンカー・バンカーシート設置前または設置1週間以内であれば併用可。	C3	天敵に影響がある剤。バンカーシート設置6週間前まで使用可能。以降は使用不可。
		C4	天敵に影響がある剤。バンカーシートとの併用は不可。



※年間防除管理プログラムについて

1. 防除管理手順	
1) 予防措置	①病虫害発生状況：ハダニ、コナジラミ、ハモグリバエ、ハスモンヨトウ、うどんこ病、灰色かび病、立ち枯れ病、A棟、B棟（できれば畝毎）を記載する。 ②年間の病虫害防除計画を立案する。（月別、天敵＋化学農薬） ③圃場に病虫害を持ち込まない。（暖房機、循環扇、換気扇） ④適切な温湿度管理を行う。（暖房機、循環扇、換気扇） ⑤葉掻きなど植物体を傷つける管理作業は、曇天時や傷口が乾かない夕方方は避ける。罹病葉、発病株などは見つけ次第、摘葉、抜き取り圃場外に持ち出し適切に処理する。
2) 防除判断	①予察：ホリバー設置 青色、黄色 100枚/10a ②施設内、圃場を回り病虫害の発生状況を把握する。 *パートの方々の目が正しい（よく見、観察力高い）ので意見を求める。
3) 物理的防除	①好湿性病害の発生を予防するために過剰な灌水はひかえる。
4) 生物的防除	①天敵導入は、年間防除管理プログラムに準ずる。
5) 化学的防除	①十分な効果が得られる範囲で、最少の使用量となる適正な散布方法を検討したうえで使用量、散布方法を定める。 ②農薬散布は、病虫害の部位に薬液が十分かかるように散布する。 ③薬剤抵抗性が発達しないよう、同一系統の薬剤散布は避け異なる系統の薬剤のローテーション散布を行う。 ④薬剤抵抗性の確認されている薬剤は使用しない。 ⑤農薬散布は、散布時期、薬剤の特徴を考慮し薬剤を選定する。 ⑥天敵導入の場合は、影響日数に従い導入前後は影響の少ない薬剤を使用する。